



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/3 (月)				文化の日			米: ISM製造業景況指数 (10月) 欧: ユーロ圏製造業PMI (10月)
11/4 (火)	▲ 300	▲ 27,900	▲ 28,200	国債発行償還 (2年) 国庫短期証券発行・償還 (3M)			米: 貿易収支 (9月) 欧: ラガルドECB総裁による基調講演と記者会見 (ブルガリア・ソフィア)
11/5 (水)	▲ 1,000	+ 20,000	+ 19,000	法人税・消費税・保険税繰上げ 普通交付税交付金			日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月18・19日分) 米: ADP雇用統計 (10月) ISM非製造業総合景況指数 (10月)
11/6 (木)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)			米: 新規失業保険申請件数 (11月1日終了週) 欧: ユーロ圏小売売上高 (9月)
11/7 (金)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				米: 米雇用統計 (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5,100億円減少し、497兆8,000億円から始まった。その後、国債買入オペ等の要因により増減し、10月31日は497兆7,100億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.460%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.530%～0.710%のレンジで出が見られた。

日銀は金融政策決定会合において、次回会合までの金融市場調節方針として、無担保コールレート（ON物）を0.5%程度で推移するように促すと決めた。

来週の予定は、国内では、11月5日に日銀金融政策決定会合議事要旨（9月18・19日分）の公表、海外では、4日にラガルドECB総裁による基調講演・記者会見、7日に米雇用統計（10月）の公表などがある。

<レポ>

足許GCは週央まで+0.49%～+0.50%のレンジで取引された。取引が月末跨ぎとなる30日には、前場は+0.45%近辺から出会い始めたが、レートは徐々に上昇しbidが一巡した後場は、+0.49%台の出会いとなった。発行が重なる翌31日の取引では、+0.50%近辺で取引された。

SC取引は2年470～477回債、5年155～180回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆4,550億円で、週間償還額の2兆8,815億円を下回った。発行残高は、先週末時点の24兆1,833億円から、10月30日時点で24兆1,170億円へと減少した。発行市場では、食料品・その他金融業・不動産業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少ないこと、また、10月29日・30日に開催された金融政策決定会合にて利上げが行われなかったことから、落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、1M物では0.50%近辺での出会いが見込まれる一方で、12月の金融政策決定会合を超える案件では、日銀の政策修正への警戒感から レート水準を探る展開が見込まれるであろう。

<TDB>

10月31日の3M（1341回債）の入札は、最高落札利回り0.4747%（前回債0.5016%）、平均落札利回り0.4690%（前回債0.4945%）となった。来週の入札は11月6日に6M、7日に3Mが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.525 ～ 0.62
2M	0.55 ～ 0.65
3M	0.61 ～ 0.70
6M	0.75 ～ 0.90

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60 ～ 0.75